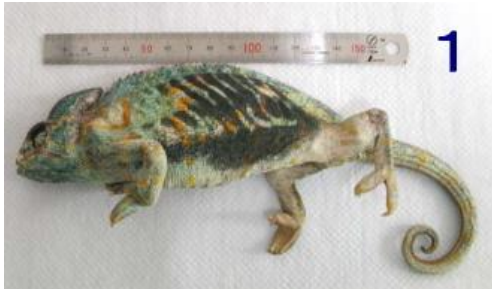


A-23-2 死亡例

写真 1



死亡直後の全身像。嘔吐と水様下痢を繰り返していたため輸液をしていたにもかかわらず脱水症状が見られます。

写真 2



両前肢

写真 3



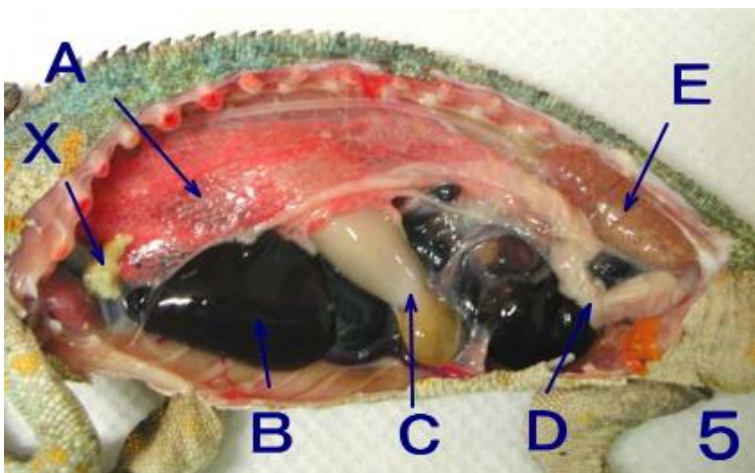
右前肢。当初穴が開き汁が出ていた傷はカサブタになっています。

写真 4



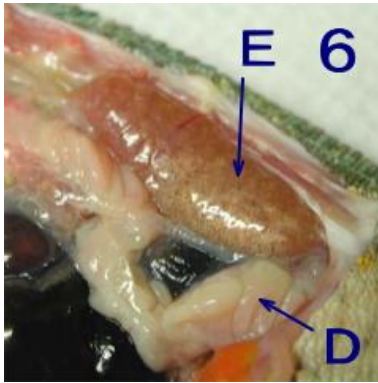
左後肢。大腿骨骨折を起こしていた部位。

写真 5



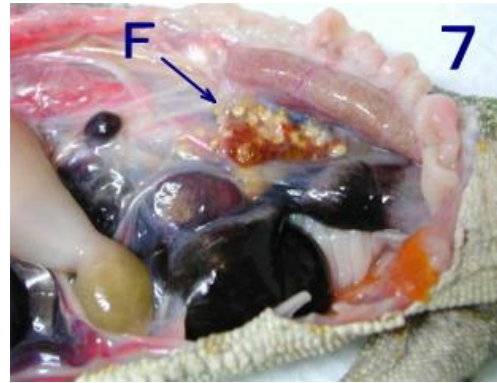
A : 肺
B : 肝臓
C : 腸管
D : 卵管
E : 腎臓
X : 黄色で柔らかい不明物質

写真 6



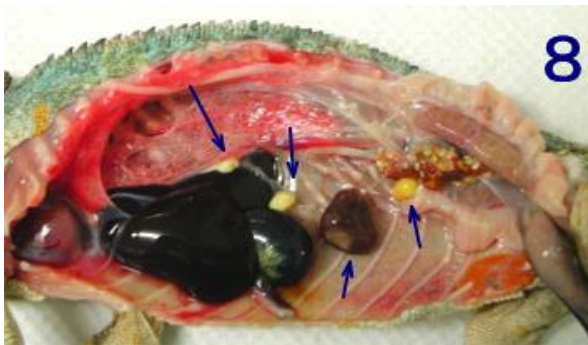
E : 腎臓 D : 卵管
腎臓の色にムラがあります。

写真 7



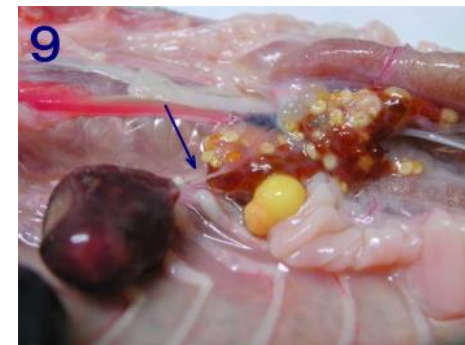
F : 卵巣

写真 8



消化管除去後の状態。各所に黄色で柔らかかな物質が散在しているのが認められました。
(青矢印)

写真 9



卵巣部分の拡大。卵巣と細い線状組織で繋がって、排卵されなかった残りと思える卵胞が認められました。

写真 10



肝臓も除去した状態。
散在している黄色物質がよく分かります。病理組織検査にもこの物質を提出して検査を行いました。正体を特定できませんでしたが産後という状況と物質の外見から推測すると卵黄かも知れません。

写真 11



肋骨を体腔側から見たもの。

肋骨は通常スムーズですがこの写真では結節状に凸凹しています。代謝性骨疾患により骨のカルシウム沈着に異常が起こったための変化です。

写真 12



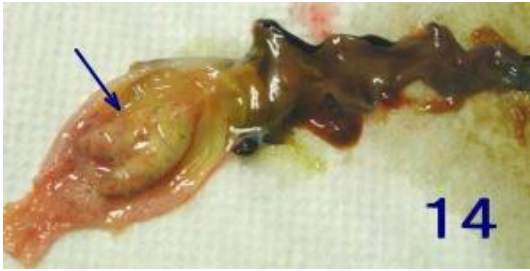
肝臓。光沢のあるグリーンのは胆嚢です。

写真 13



胃～直腸までの消化管。内容物が比較的含まれているようで、ところどころ膨れています。

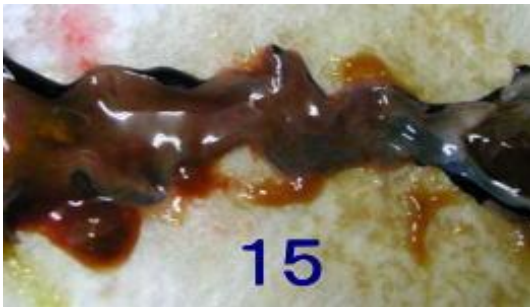
写真 14



胃（写真左側）～上部消化管を開いたもの。

胃の中には強制給餌したシルクワームが未消化のまま残っています。これは死亡する6日前に与えたものです。上部消化管には暗赤色の粘液が充満していました。

写真 15



腸に充満していた暗赤色粘液。

写真 16



直腸粘膜。

ほとんど便は貯留していません。死亡6日前に排尿・排便を認めたためシルクワーム1匹を与えたのですが、それ以降胃腸の動き・機能が正常に働いていなかったのでしょうか。

直腸のわずかな残渣からの便検査では鞭毛虫類が多数認められたのみで、線虫卵・条虫卵・コクシジウムシストは観察されませんでした。

各臓器は詳しい検査のために病理組織検査に提出しました。

その結果、肝臓・肺・心臓には特に異常はありませんでした。腎臓には石灰沈着と炎症が認められました。胃には多数の細菌が認められ、胃炎を起こしていました。腸管にはコクシジウムがまだ寄生していました。肋骨は顕微鏡的に診ても骨がやや崩壊してしまっているということでした。